2022年3月期 第2四半期　決算説明会

TOKUSHU
TOKAI
PAPER

特種東海製紙株式会社

Ⅰ.財務情報

2022年3月期第2四半期
決算概要
≫連結業績
≫利益の増減要因
≫セグメント情報

2022年3月通期 業績見通し
≫連結業績見通し
≫営業利益の増減要因

Ⅱ.基盤事業の強化／成長戦略

第５次中期経営計画
≫第５次中計の位置づけ
≫　〃　の進捗

基盤事業の強化
≫産業素材
≫生活商品
≫特殊素材

成長戦略
≫高付加価値パッケージ戦略
≫TT‐PACKAGE
≫MOLDEA
≫紙を超えたシート状物
≫フィブリック事業
≫環境関連事業

Ⅲ.企業価値向上に向けて

≫プライム市場移行にあたっての課題認識
≫持続可能な社会実現を目指して
≫カーボンユートラルに向けたロードマップ

Ⅰ.財務情報

- 2022年3月期
  第2四半期決算概要
- 2022年3月通期
  業績見通し

Ⅱ.基盤事業の強化／成長戦略

- 第５次中期経営計画
- 基盤事業の強化
- 成長戦略

Ⅲ.企業価値向上に向けて

2022年3月期 第2四半期
決算概要

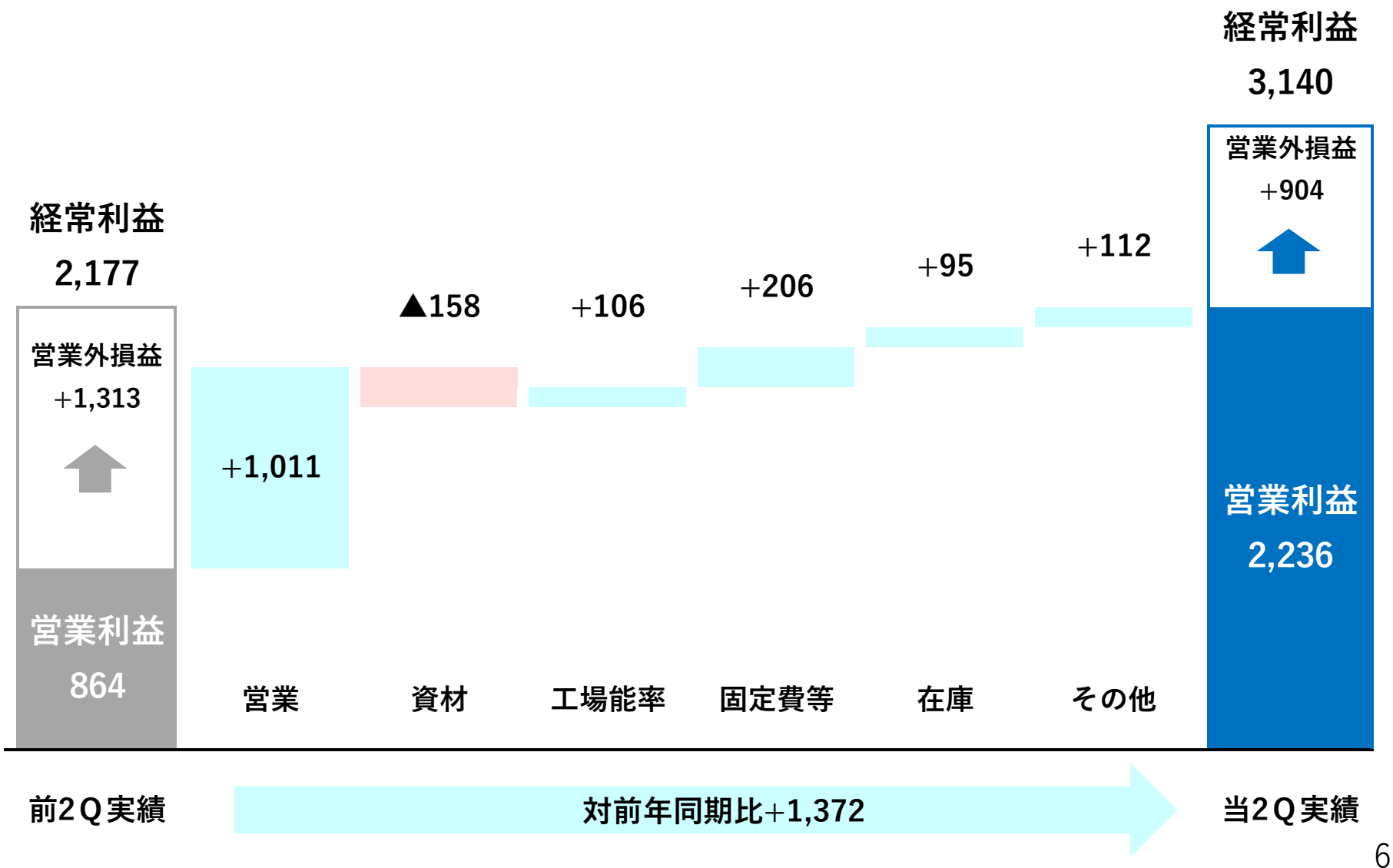
2022年3月期 第2四半期決算概要

（単位：百万円）

	21年3月期 2Q実績	22年3月 2Q実績	増減
売上	36,663	38,839	2,176
営業利益	864	2,236	1,372
経常利益	2,177	3,140	963
親会社株主に帰属する当期純利益	3,057	3,455	398
売上高営業利益率	2.4%	5.8%	―

2022年3月期 第2四半期 営業利益の増減要因

（単位：百万円）



2022年3月期 第2四半期 セグメント情報

（単位：百万円）

		21年3月期 2Q実績	22年3月期 2Q実績	増減
産業素材事業	売上高	18,348	19,199	851
	営業利益	516	605	89
特殊素材事業	売上高	8,414	10,406	1,992
	営業利益	175	1,526	1,351
生活商品事業	売上高	8,243	8,246	3
	営業利益	318	349	31
環境関連事業	売上高	4,024	3,424	△600
	営業利益	△81	△180	△99
消去等調整額	売上高	△2,366	△2,437	△71
	営業利益	△63	△64	△1
合計	売上高	36,663	38,839	2,176
	営業利益	864	2,236	1,372

2022年3月期
業績見通し

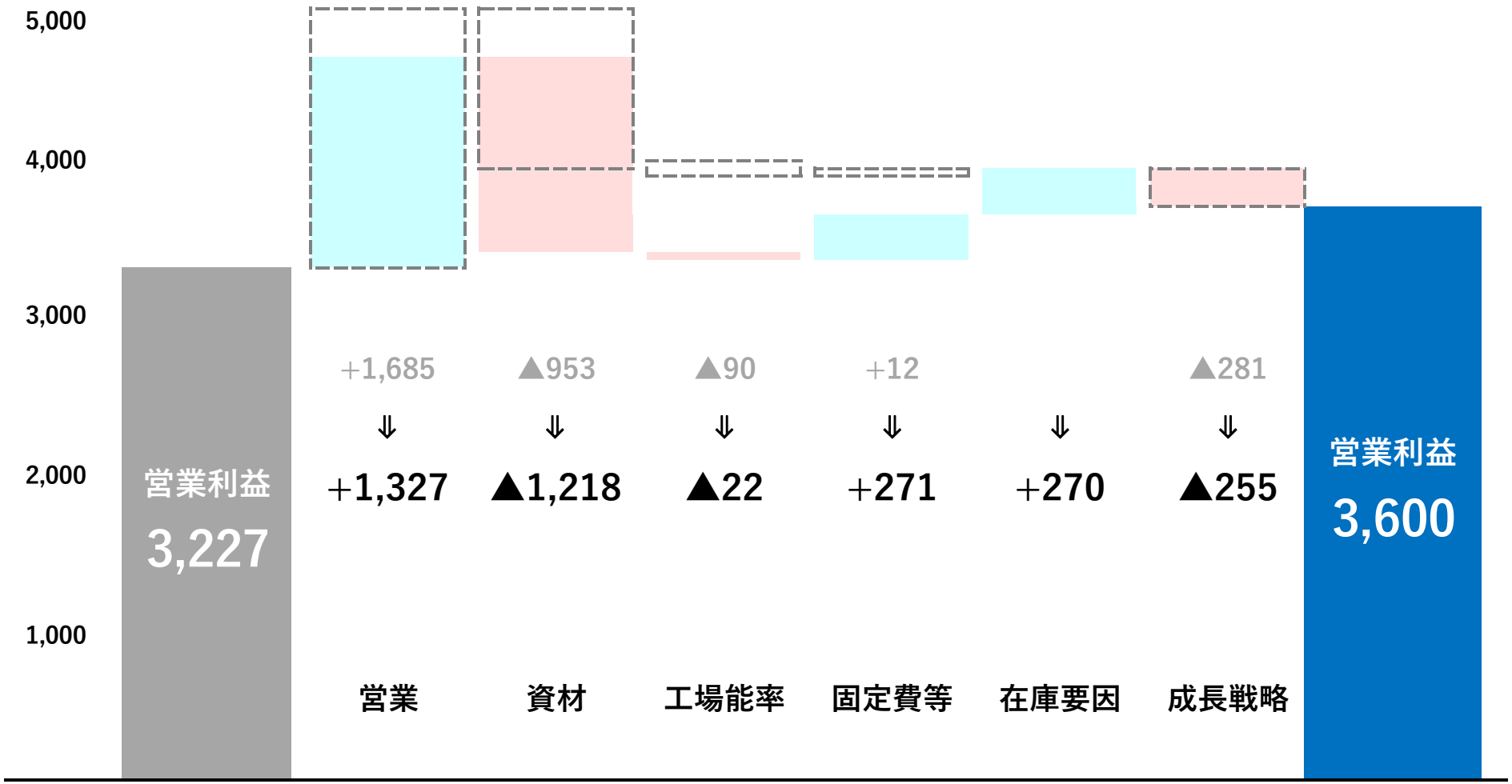
2022年3月期 連結業績見通し

（単位：百万円）

	21年3月期 実績	22年3月期 見通し	増減
売上	76,403	81,000	4,597
営業利益	3,227	3,600	373
経常利益	5,970	5,000	△970
親会社株主に帰属する当期純利益	5,594	3,600	△1,994
売上高営業利益率	4.2%	4.4%	―

※前提　為替レート　上期：105円/US＄　下期：110円/US＄
原油価格(ドバイ)　上期：　55＄/B　下期：　70＄/B

2022年3月期 連結業績見通し 営業利益の増減要因



21/3実績　対21/3実績比+373　22/3予想

政策保有株式・ＲＯＥ推移

保有株式の定期的な見直しを実施

・毎年、取締役会において保有株式の見直しを実施。
・保有メリットと資本コストから導く保有コストを比較することに加え、
業界動向など総合的判断のもと、保有必要性の有無を取締役会にて決定。

➡ 引き続き、株式の流動性向上を図る。

表：純資産に占める政策保有株式比率の推移

	2018年3月	2019年3月	2020年3月	2021年3月	2021年9月
連結純資産 A	72,767	75,713	77,678	80,286	82,319
政策保有株式 B	17,635	15,366	14,444	10,990	11,273
比率 B ÷ A	24.2%	20.3%	18.6%	13.7%	13.7%

直近５年間のＲＯＥ推移

	2018年3月	2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月※見込
当期純利益(百万円)	2,193	4,212	3,694	5,594	3,600
自己資本(百万円)	66,345	69,042	70,908	73,429	ー
ＲＯＥ（％）	3.3%	6.1%	5.2%	7.6%	5.0%

Ⅰ.財務情報

- 2022年3月期
  第2四半期決算概要
- 2022年3月通期
  業績見通し

Ⅱ.基盤事業の強化／成長戦略

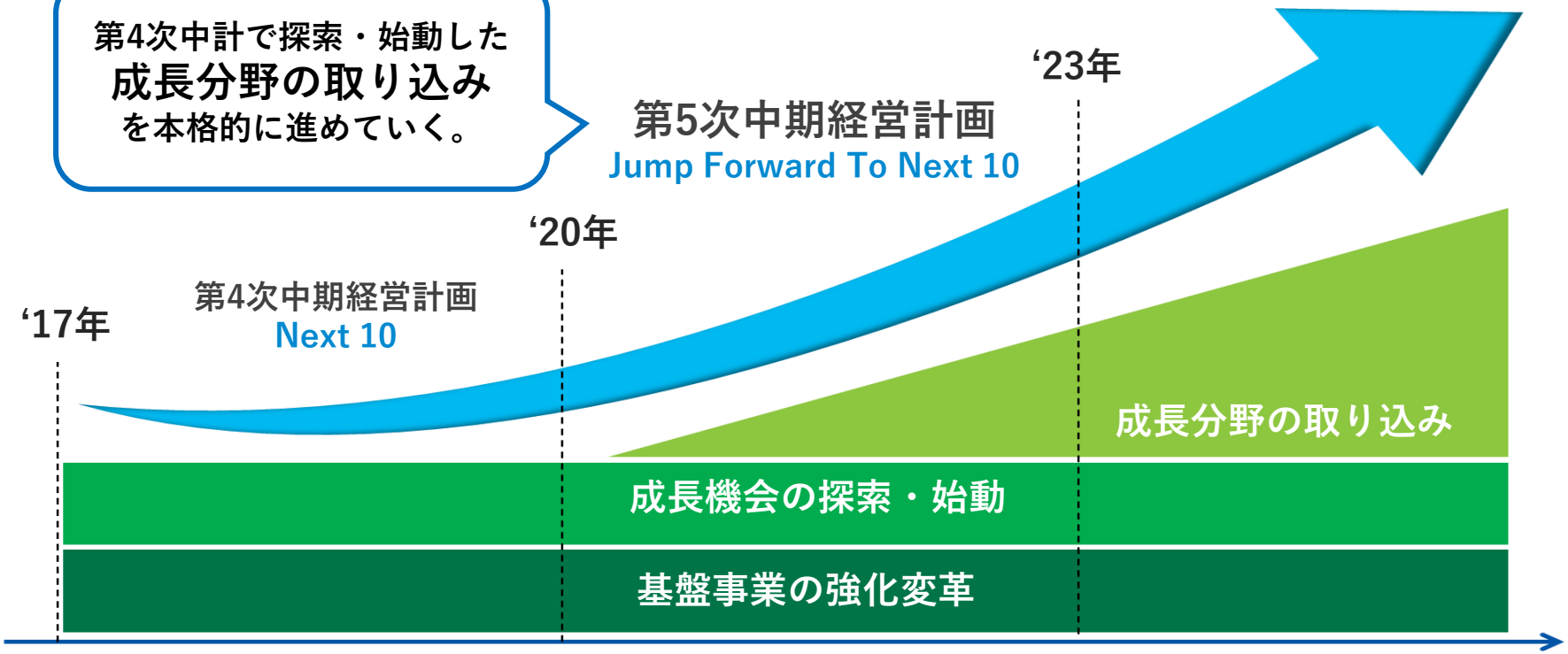
- 第５次中期経営計画
- 基盤事業の強化
- 成長戦略

Ⅲ.企業価値向上に向けて

第５次中期経営計画

第5次中期経営計画の位置づけ

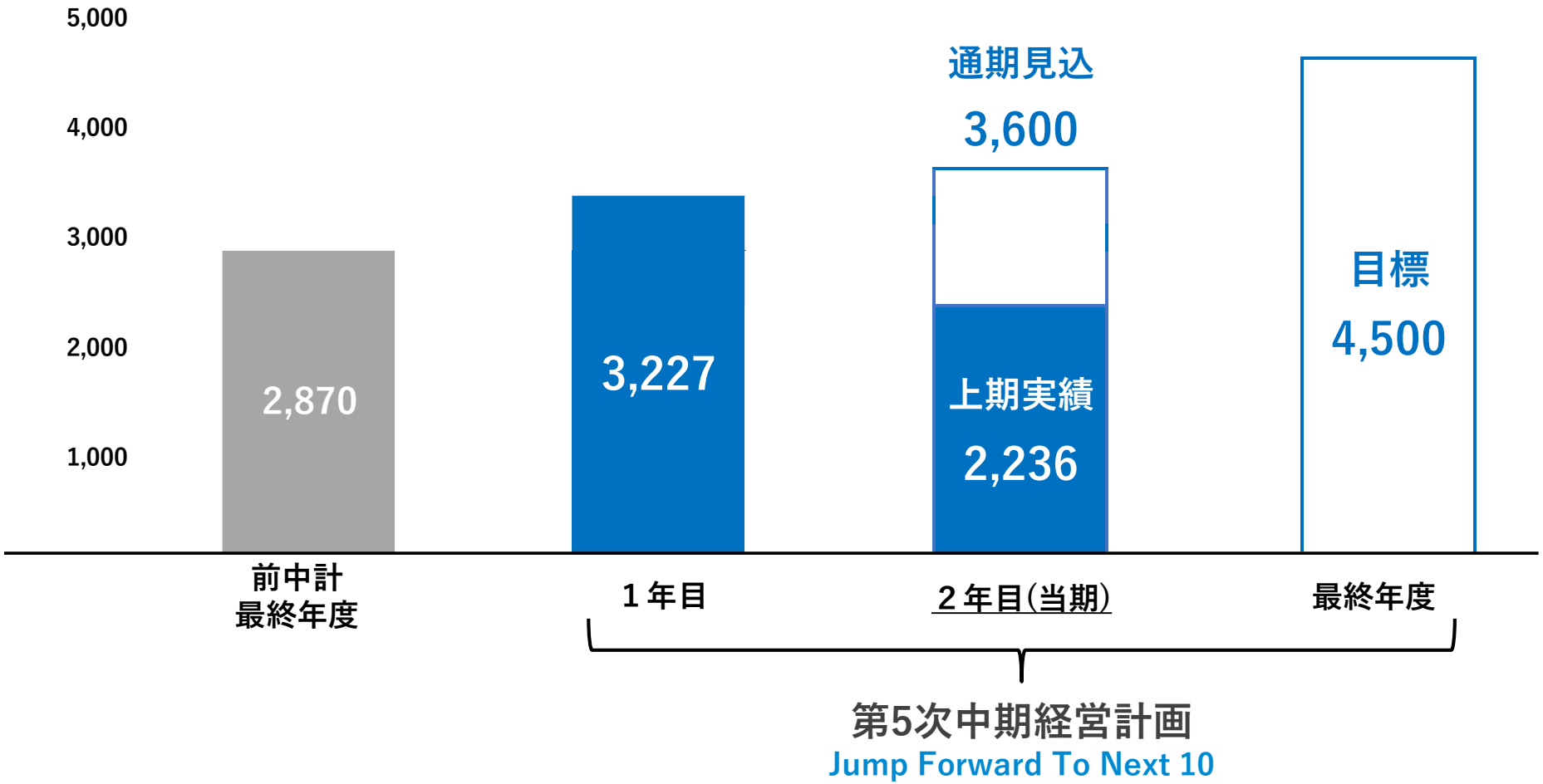
第4次中計で探索・始動した
成長分野の取り込み
を本格的に進めていく。



	第5次中計最終年度 2023年3月期目標	長期目標
売上高	825億円	1,200億円
営業利益	45億円	100億円
営業利益率	5.5%	8.3%
ROE	6.5%	8.0%

第5次中期経営計画の進捗

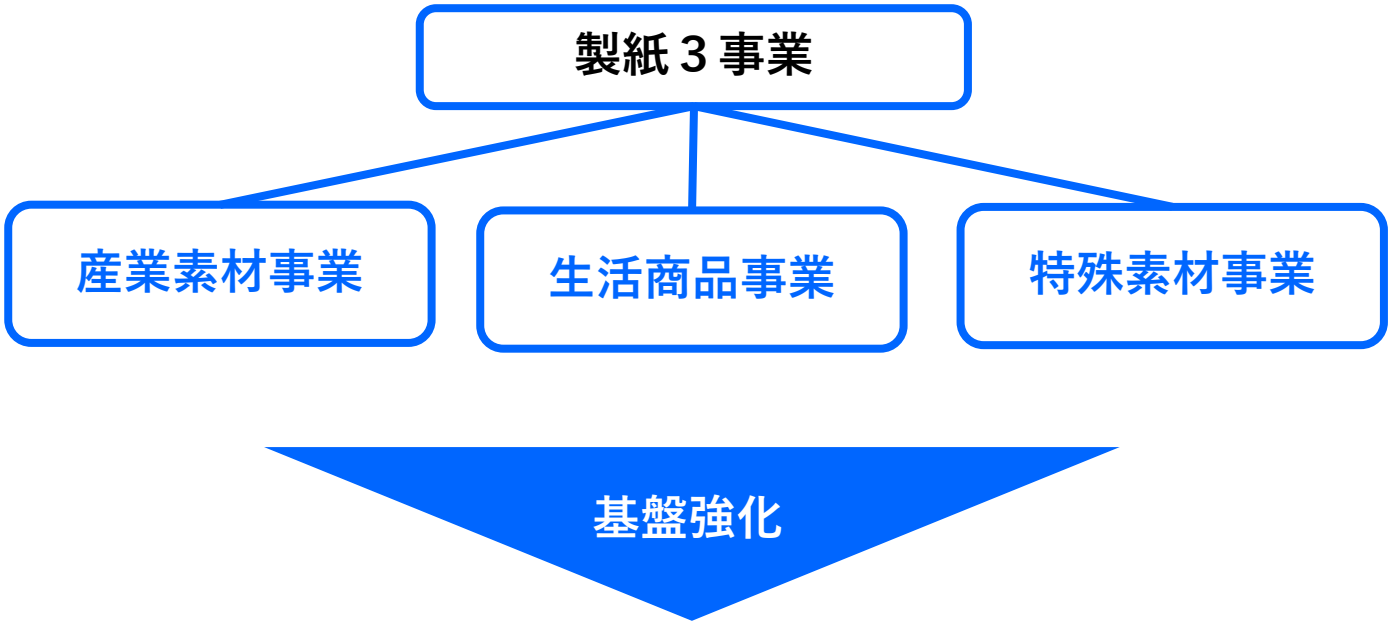
コロナ禍における厳しい経営環境のなかでも**体質強化の効果**はしっかりと表れてきており、
営業利益**45億円**はチャレンジングな目標であるものの十分狙える値。



基盤事業の強化

基盤事業の強化のイメージ

新型コロナウイルスの影響が続くなか、
製紙３事業においては**さらなる事業の筋肉質化**を推進。



情報媒体としての紙の需要が減退するなかでも
成長し続けられる事業体質へ

産業素材事業

上半期レビュー

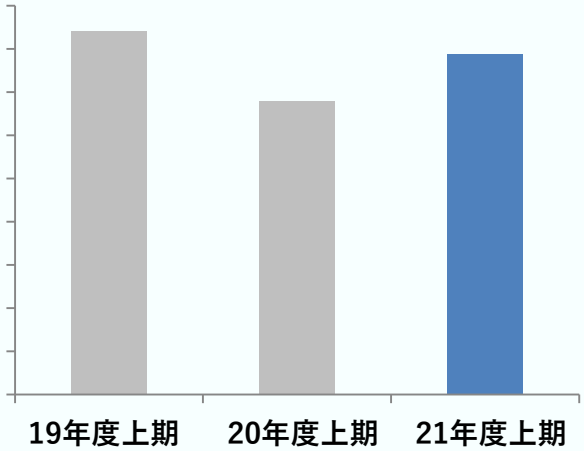
国内販売はコロナ禍から回復基調で推移、工場生産量は前年同期を上回った。

・国内販売は工業製品向けをはじめとした
コロナ禍からの回復基調により堅調に推移。

・島田工場生産量は販売の堅調な回復により
段原紙、クラフトとも前年同期比増。(右図)

・重油をはじめとする原燃料価格の上昇による
影響が懸念されている。

参考：島田工場生産量
(段原紙＋クラフト紙)の推移(t)



課題と施策

- さらなる生産の効率化と安定化
- 新製品開発の推進 ➡ ユーザーニーズを早期に発掘し、
ライナー軽量化・クラフト薄物化対応
の検討を開始。

生活商品事業

上半期レビュー

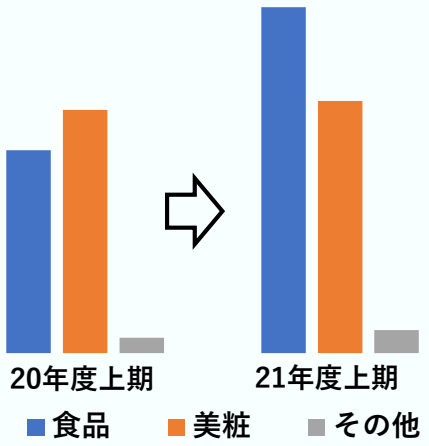
人流抑制の影響で外食店等での使用は減少したものの、
ペーパータオル需要そのものは拡大基調。

・クレシアとの営業統合によるメリットを活かすべく、
クロスセルなどの方策を展開。

・トイレットペーパーの需要は安定しているが、
業務用は厳しい状況が続く。

・ラミ製品は美粧用の回復が遅れるいっぽう、食品
用等では新規獲得もあり受注量増加。（右図）

参考：富士工場受注量推移（㎥）



課題と施策

- **新規参入が相次ぐ家庭紙市場での優位性の確保**

➡ ペーパータオルにおいては、環境配慮型の製品として、
ポリ包装を紙に置き換えた業界初の紙包装品を上市。
認知度向上に努めた。

特殊素材事業

上半期レビュー

需要構造の変化に対応するため、
生産体制の変革による原価低減、販売価格の適正化
を実施、事業体質の強化へ。

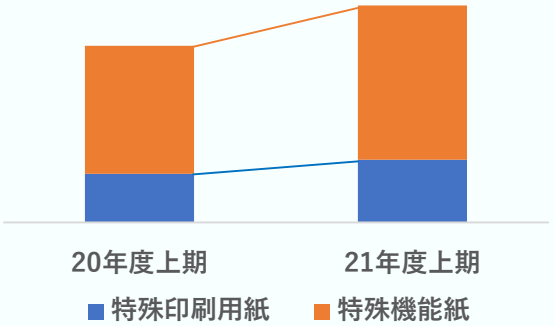
・商業印刷、土産物等用途は昨年比増ではあるものの、各種イベントや旅行の自粛の影響が続き、一昨年並みには届かなかった。

・薄型テレビの好調に伴って強い状況が続いたガラス合紙に加え、地域経済対策用の特需を獲得、機能紙が特殊素材全体の業績を底上げ。

参考①：特殊素材事業営業利益の推移

20年度上期		21年度上期
175百万円	⇨	1,526百万円

参考②：製品売上高の推移(百万円)



課題と施策

- 原価低減と販売価格の適正化のさらなる推進
- 工業用工程紙のさらなる差別化とシェア拡大に注力

成長戦略

成長戦略のイメージ

経営環境が厳しさを増すなか、“紙”ニーズへの可能性を追求するとともに
製紙以外の事業領域にも引き続き経営資源を投下していく。

成長戦略

紙製品需要の新規開拓

- TPACKAGE
- MOLDEA
- 紙を超えたシート状物

オンリーワン技術で
減プラ・脱プラニーズに応える

製紙以外の新たな事業領域

- フィブリック
- 資源再活用
- 自然環境活用

経営資源を有効活用し、
事業領域の拡大を目指す

紙製品需要の
新 規 開 拓

- PACKAGE
- MOLDEA
- 紙を超えたシート状物

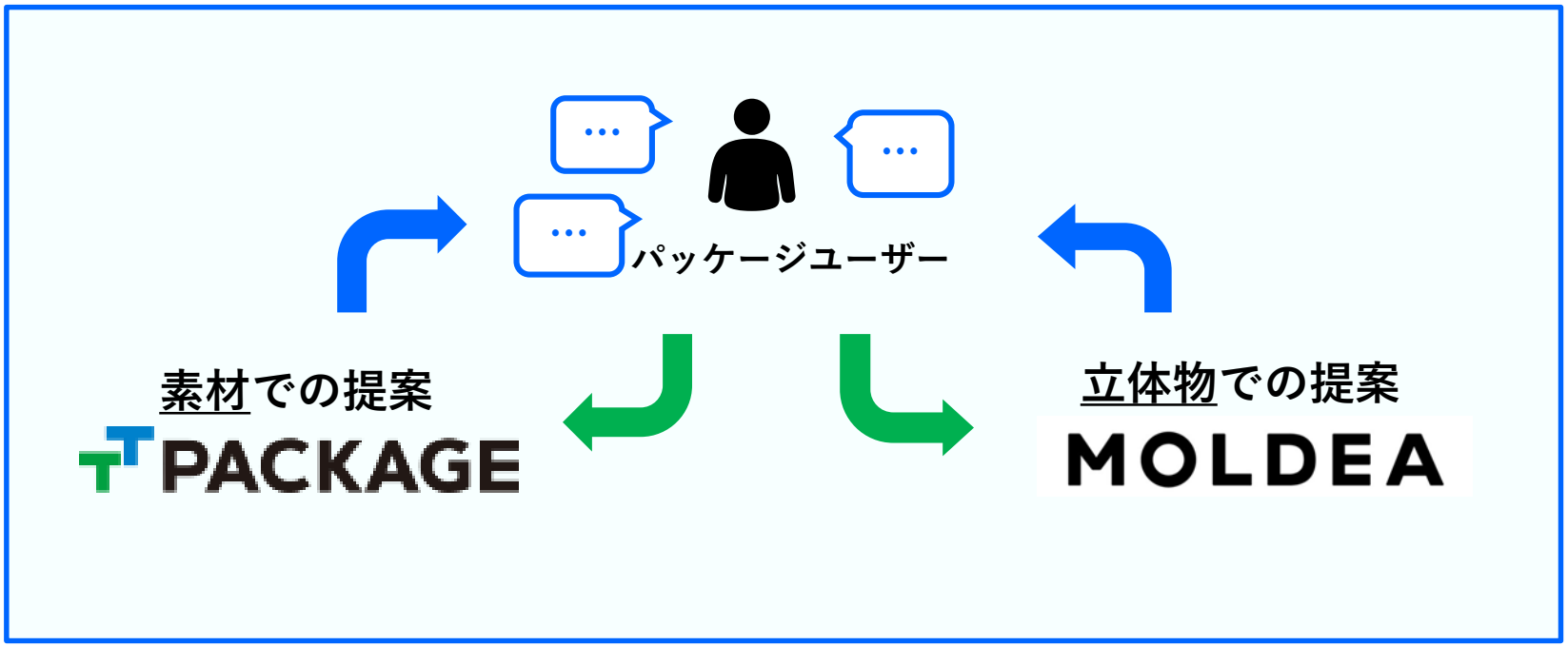
オンリーワン技術で
減プラ・脱プラニーズに応える

高付加価値パッケージ戦略

テーマ

素材と立体、２つのアプローチでパッケージユーザーへ新提案

環境意識の高まりなど社会の変化に伴って生まれる新たなニーズを開拓、
当社パッケージ事業での製品提案へとつなげる。



目標

プロダクトアウトと最終顧客ニーズのマッチングによる新たな市場創造

TT-PACKAGE

特徴

エンドユーザーと近い位置でのコミュニケーションを活用。
ユーザーの声に基づいた製品開発・提案活動を実施。

飲食系ユーザー

テイクアウト用の食品容器が欲しいけれど、どれも同じで面白味がない・・・

TT-BARRIER DERI

吸水・吸油／耐水・耐油はもちろん、豊富なカラーバリエーションを展開

インテリア系ユーザー

ギフトに使えるような丈夫でキレイな紙が欲しい・・・

TT-CUSHION

緩衝材としての機能に加え、防滑塗工・様々な意匠性付与が可能

今後のテーマ

展示会やＥＣサイトを活用したマーケティングでニーズを探索、ラインナップの拡大を目指す。

MOLDEA

特徴

最終製品までを手掛ける一貫メーカーに向けた挑戦の第一歩

STEP1

採算可能性や設備号入の検討など事業化の準備

||

完了

STEP2

設備の立ち上げ、サンプル提供、汎用型の販売開始

||

完了

STEP3

ウェットモウルドの販売体制を確立

||

当上期で完了。
サンプル提供への反応にも手応えアリ。

STEP4

本格参入

今後のテーマ

得られたユーザーニーズに対し、
スピード感を持った技術対応が可能な開発体制を整備する。

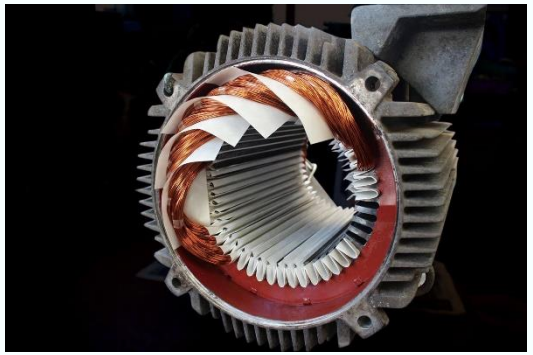
紙を超えたシート状物

メタアラミド繊維をシート化

・絶縁紙を製造、製品化してきた経験を活かし、
その技術を凝縮した高性能耐熱絶縁紙
＝TT-TOKRON。

・耐熱性、高い引張強度、寸法安定性に優れる。

・徹底した品質管理体制での生産、管理、供給
により、ユーザーの要望に細やかな対応が可能。



画像：高耐熱性絶縁紙の使用例のイメージ

フリース壁紙を上市予定

従来の壁紙　：張替の際、表面の塩ビだけを剥がすため、張替のたびに裏打ちの紙が壁に蓄積されていく。

フリース壁紙：裏打ちの紙ごと剥がすことができるため、壁に紙が残らない。

今後のテーマ

上市済み製品の継続的な品質向上と未上市の製品開発・拡販

製紙以外の新たな事業領域

- フィブリック
- 資源再活用
- 自然環境活用

経営資源を有効活用し、
事業領域の拡大を目指す

フィブリック

レビュー

開発を進めていたセルロース系セパレータは今年度中に販売の目処。

加工・工夫がしやすい素材

別工程（塗工プロセス）ではなく
同工程（膜化プロセス）内で機能
付与が容易。

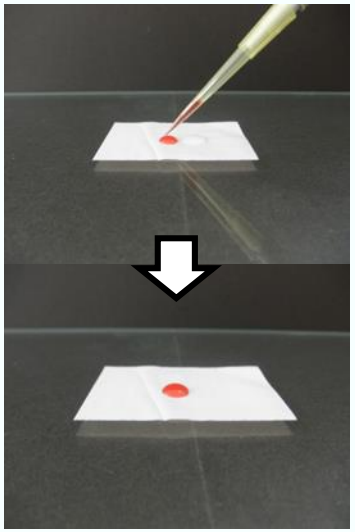
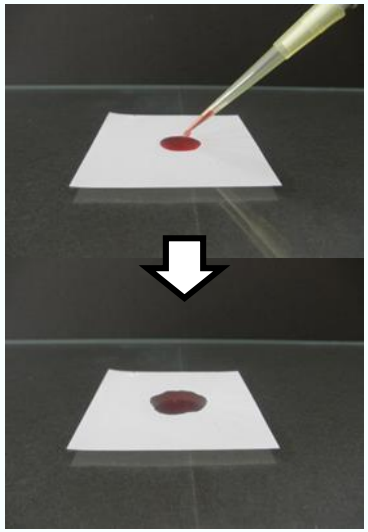
高い耐熱性

高温時でもセパレータが溶融する
ことがなく、フィルムセパレータ
に比べて安全性が高い。

電解液の高い浸透性(右図参照)

フィルムセパレータに比べ、
電気抵抗の低減やタクトタイムの
短縮が可能。

参考：電解液溶媒(プロピレンカーボネート)
を使用した浸透性の実験

フィルム セパレータ	セルロース系 セパレータ
	
液体は染み込まず 玉状に。	液体はすぐに染み込み セパレータへ浸透。

事業化２年目での単年黒字化を予定

資源再活用本部

レビュー

レックス・駿河サービス工業ともに計画値以上の営業利益を計上。
8月には駿河サービス工業が非連結子会社だった湘南商事を吸収合併した。

・コロナ禍による産業活動の低下や建設・解体の減少などにより産廃の発生状況は低位だったものの、集荷に努力し計画量を確保。

・レックス島田工場の破砕機及びコンベア更新により計画どおりのRPF製造能力向上（約+150ｔ／月）を実現。また、長泉工場では下期より24時間操業をスタート。

(写真)駿河Ｓが処理した熱海の土石流による倒木

課題と施策

レックスの生産体制の確立、駿河サービス工業の利益ＵＰを図る。

① レックス長泉工場における原料の保管能力不足	➡	置き場の増築工事を実施中
② 駿河サービス工業における外注処分費用の高騰	➡	混合廃棄物の選別強化に向けた設備導入の検討

自然環境活用本部（十山・ウイスキー事業）

レビュー

ウイスキーづくりは順調に安定稼働、高品質な長期熟成のシングルモルトへ。

安定した製造

国税品質評価
「優」を獲得

希少価値の醸成

地域と協働し、井川社有林に自生するミズナラで樽を製作する試み“樽プロジェクト”が始動

写真：樽づくりプロジェクトは地元ＴＶが追跡取材中
Yahoo!ニュースにも掲載

目標　井川社有林を活用したグループの価値向上を目指す。

Ⅰ.財務情報

・2022年3月期
第2四半期決算概要

・2022年3月通期
業績見通し

Ⅱ.基盤事業の強化
／成長戦略

・第５次中期経営計画

・基盤事業の強化

・成長戦略

Ⅲ.企業価値向上に
向けて

プライム市場移行にあたっての課題認識

さらなる企業価値向上に向けガバナンス強化を図っていく。

株主の権利、平等性の確保

・政策保有株式のより一層の縮減（持合い株式の解消）
・株主との建設的な対話の充実

社外取締役のさらなる機能発揮

・社外取締役の役割と構成の再考
・経営マターのスキルを持つ人選等の検討

有用で適切な情報開示

・役員のスキルマトリクス等の非財務情報開示の充実
・サステナビリティに係る情報開示

統合報告書(仮)は2022年3月、
TCFDフレームワークに則った開示は同年6月に公表予定。

12月 → 1月 → 2月 → **3月** → 4月 → 5月 → **6月**

持続可能な社会実現を目指して

医療用包装材
ウエブロン
オフセットマスター支持体
不織布
おしぼり用紙
トランプ用紙
レッドロープ
タイル貼り紙
傘紙
タイヤ巻き紙
大理石模様紙
タウパー
通帳表紙
レザック
ガラス合紙

紙化
（バイオマス素材化）

- 産業素材
- 生活商品
- 特殊素材

Technology ＆ Trust
差別化された技術の融合
NaSFA

最終顧客ニーズに対応

脱プラ・減プラ

- TPACKAGE
- MOLDEA
- NatuLami ナチュラミ
- フィブリック

環境関連

南アルプスの活用
廃棄物の有効利用の促進
（バイオマスエネルギー等）

水力発電
黒液回収ボイラ
バイオマスボイラ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

持続可能な社会への貢献　これまでも　これからも

カーボンニュートラルに向けたロードマップ

バイオマスボイラ導入など**早期より低炭素操業に注力**してきた。

参考：主要な生産４社の生産tあたりのCO2排出量

2005年度 0.66 t-CO2/t ▶ 2013年度 0.28 t-CO2/t ▶ 2019年度 0.22 t-CO2/t ▷ 2030年度予想 0.18 t-CO2/t

2030年　2050年

カーボンニュートラル産業に向けた取り組み

2030年度目標：▲38%（13年度比）
（参考値：05年度比▲72%）

2050カーボンニュートラルへ

再生可能エネルギーの利用拡大

- 再生可能エネルギー発電設備検討、導入
- FITバイオマス発電電力販売から自家消費への転換
- 新たな燃料の開発
- 新たな製紙又はエネルギーに関する技術の導入
- ボイラー運用の効率化

省エネルギーの推進

- 省エネの継続（年平均１%以上の削減）

カーボンニュートラル社会への貢献に向けた取り組み

森林による吸収

- 社有林の適正な保全

環境対応素材の開発

- 脱プラに貢献する新製品の開発により、顧客の温室効果ガス排出量を削減

TOKUSHU
TOKAI
PAPER

お問い合せ先：財務・IR本部

〒104－0028

東京都中央区八重洲2－4－1
住友不動産八重洲ビル

Tel　03－3281－8581

Fax　03－3281－8591

E-mail：ttp.ir@s.tt-paper.co.jp

※本資料に掲載しております当社の計画および施策などは発表日時点において把握できる情報から得られた当社の経営判断に基づいております。様々なリスクおよび不確定要因により、実際の業績と異なる可能性がございますことを、予めご承知おきくださいますようお願い申し上げます。